

放射性物質全域調査及び土壌回収作業進捗状況(平成20年3月)

実施項目		実績(3月)	予定(4月)
所内 全域 調査	1. 第1次調査	(完了)	
	2. 第2次調査	回収場所Cの管理区域の西側に回収対象土壌の存在が判明したことから、周辺でボーリング調査などを実施	(調査対象場所の建物などが撤去されるまで休止)
土 壌 回 収 作 業	1. 回収計画立案	(完了)	
	2. 準備作業	鉱石由来土壌回収場所へのテント設置準備	(なし)
	3. 回収作業	回収場所A、Bの作業用テント内での回収作業は完了し、地表面全域の汚染検査を実施。他の鉱石由来土壌回収場所での回収作業を継続	鉱石由来土壌回収場所での回収作業を継続
	4. 回収土壌などの保管	3月31日現在、精製済ウランを含有する土壌などを1.5m ³ 角型容器で174個(注)(200リットルドラム缶換算1,305本)回収し、放射性廃棄物として施設Sに保管、鉱石由来のウラン、トリウムを含有する土壌などを1.5m ³ 角型容器で559個(注)回収しS棟に保管	
	5. 行政庁への手続き	回収場所A、Bの精製済ウランを含有した土壌などの回収について、3月18日に完了検査が実施され、回収完了を確認。作業用テントA、Bの解体撤去、作業用テントCの管理区域拡大に関する核燃料物質使用変更許可を3月31日付にて申請	
そ の 他	1. 環境モニタリング	空間線量当量率及び空気中の放射性物質濃度の測定。地下水の採取と分析	同左
	2. 放射性廃棄物の保管 (旧核燃料試験研究施設整備)	3月31日現在、200リットルドラム缶152本、1.5m ³ 角型容器2,756個、2m ³ 角型容器828個、200リットルドラム缶換算で合計29,102本を地下保管庫(施設N)に保管。なお、地下保管庫にはNDC社が、1.5m ³ 角型容器で1,180個(200リットルドラム缶換算8,850本)を保管	

(注) 回収作業を開始してからの累計で示す。

以上